

みどり北九州

MIDORI KITAKYUSHU



北九州緑化協会

発行所

一般社団法人 北九州緑化協会

〒805-0033 北九州市八幡東区山路松尾町14番2号

発行人/水野貞明 編集/広報委員会

TEL.093-654-1233 FAX.093-654-1231

e-mail : info@kita-ryokka.or.jp

ホームページアドレス : <http://www.kita-ryokka.or.jp>

第 **50** 号
平成30年
4月1日発行

ご挨拶

こちら公園緑地部 勝山公園鷗外橋西側橋詰広場の整備について

環境と緑 平成29年度 公益活動報告

第10回「都市と自然の共生」シンポジウム

「到津の森公園」環境整備支援活動

初めまして「〇〇」です

「ランドスケープ交流会 in 北九州」の開催

樹木医からの一言

～みどり北九州50号記念座談会～

これからの造園業界を考える

平成29年度 協会活動報告

会員名簿

掲示板

「写真:門司区萩ヶ丘公園」
撮影:編集部



北九州市長 北橋 健治



一般社団法人 北九州緑化協会
会長 水野 貞明

水野会長をはじめ、一般社団法人北九州緑化協会の皆様におかれましては、日頃から、本市の公園緑地の維持管理や指定管理業務など多岐にわたり、多大なご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

また、「到津の森公園での園内整備」、「都市と自然の共生」シンポジウムの開催、「都市緑化祭でのイベント実施」など、環境緑化の推進にも毎年お力添えいただいております。重ねてお礼申し上げます。

昨年は、ミクニワールドスタジアム北九州のグランドオープンや市立美術館のリニューアルオープン、関門海峡の日本遺産認定に加え、文化庁のメディア芸術分野で本市が拠点都市に選ばれるなど、これまでの取組が成果となって現れた年でした。そして10月には、天皇皇后両陛下に行幸啓いただいたことは大変光栄なこと、明るい話題に彩られた年となりました。

本市では、地方創生の成功モデル都市を目指して社会動態をプラスにすべく、新しい人の流れをつくり、地域経済を活性化させるとともに、文化やスポーツの振興などに取り組

み、全国的にも高い評価を受けている「暮らしやすさ」という本市のポテンシャルを活かしたまちづくりを進めています。

産業振興では、引き続き「ものづくり・環境のまち」の進化を図るとともに、中小企業の事業承継や生産性向上への支援を行い、多様な働き手が活躍できる社会を作っていきます。また、公園緑地に関する事業では、勝山公園の魅力向上、延命寺臨海公園の整備などに取り組んでまいります。

さらに、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致に引き続き取り組み、スポーツを通じて本市の魅力を世界へ発信していきます。

今年、北九州市は市制55周年を迎えます。「GO!GO!北九州」をテーマに飛躍を期す一年としてまちづくりを進めてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人北九州緑化協会の今後ますますの発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

新年度を迎えるにあたって、一言で挨拶を申し上げます。

「平成」という元号の最後の年度を迎えると思うと時代の移り変わりの速さや街並みの変化など感慨深いものがあります。また当「みどり北九州」は、今回で50号になりましたが、題字は昭和58年創刊当時の谷伍平市長に揮毫いただいたものです。

さてお蔭様で昨年度も、さまざまな活動を展開することが出来ました。公益活動として各種講演会や技術研修会の開催、到津の森公園での環境整備ボランティア活動等々。

特に昨年の11月2日に開催した第10回「都市と自然の共生」シンポジウムでは、講師の進士五十八公立大学法人福井県立大学学長には「3つの共生で環境まちづくり・4つの多様性で持続可能社会」について、加藤禎久国立大学法人岡山大学グローバル人材育成院准教授には「しなやかな回復力をもったグリーンインフラの創造」と題して、ご講演いただきました。また、柴田北九州市建築都市局長には北九州市が目指している「世界の環境首都」を踏まえて生物多様性保全の観点から、北九州市の事例を交えたご報告をしていただきました。このシンポジウムが、北九州市において「自然環境保全」や「生物多様性確保」の重要性について市民の理解の一助となれば幸いです。

さて、我が国は、かつて経験したことのない社会に移行しつつあります。急激な少

子高齢化の進行と人口減少、火山噴火や大地震の発生など自然災害リスクの高まり、ゲリラ豪雨や頻繁な台風の上陸など気候変動に伴う地球環境問題の深刻化、グローバル化による世界的な都市間競争等々です。こうした社会的課題や環境問題の解決に対して、「グリーンインフラ」が、新しい社会資本整備の考え方としてクローズアップされています。これは、自然環境が有する防災・減災、気候緩和、健康増進など多様な機能を活用することによって、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを推進することです。

私共は、日頃から「自然」や「緑」との関わりの深い業種でありますから、地域の特徴を十分に生かす知恵や技術力を高めることによって、この分野において、将来に向かっの社会的役割を見出すことが出来るのではないかと考えています。

そのため新たな施工技術の向上、伝統的造園技術の継承・発展や経営の合理化に向けた取組みも一層強化したいと考えております。

伝統的造園技術に関しては北九州市より、戸畑区の旧安川邸の作庭事業において技術研鑽の機会を与えられるのではないかと考えています。

皆様方の一層の御指導・御支援をお願い申し上げますと共に、ますますの御発展を心からお祈り致します。



北九州市の公園事業として、本市の地域資源を活かした特徴的な取組みをご紹介します。

勝山公園鵜外橋西側橋詰広場の整備について

勝山公園では、平成28年2月に、「小倉城周辺魅力向上事業基本計画」を策定し、北九州、小倉ならではの歴史的・文化的な資源を活用した集客力や回遊性のある観光・文化の名所づくりを行っています。

近年のインバウンドの効果などもあり、多くの利用者や観光客が訪れていますが、利用者が座ったり、お茶を飲んだりする休憩場所が少ないことから、公園内の滞留や回遊性などの更なる推進が課題となっています。

そこで、公園利用者の利便性、回遊性の向上や更なる賑わいの創出を図るため、勝山公園の鵜外橋西側橋詰広場において、民間活力を活用した施設整備に現在取り組んでいます。

(1) 事業手法

民間活力を活用した施設整備の導入にあたっては、平成29年6月の改正都市公園法に盛り込まれた公募設置管理制度（P・P・F事業）を活用することとした。

当制度は、飲食店や売店等の公園利用者の利便性を向上させる施設と、その施設から生じる収益を活用してその周辺の園路、広場等の整備・改修を一体的に行う民間事業者を公募により選定する制度で、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性の向上を図る新たな整備・管理手法です。

項目	内容
事業手法	・ 公募設置管理制度（P・P・F事業）を活用 ・ 公募対象公園施設（民設民営）の整備とあわせ、周辺の園路や広場、植栽などの特定公園施設（外構）の整備
施設等の概要	・ 飲食・物販機能を有する公園施設（便益施設） ・ 建築面積…約200㎡程度
事業期間	・ 最長で20年間
官民の役割分担	・ 行政・森鷗外文学碑の移設、既存売店・便所の撤去、周辺広場、水道や電気等のインフラ整備等 ・ 決定事業者…公募対象区域内の施設及び特定公園施設の整備
設置許可の土地の使用料	・ 施設の設置に伴う設置許可の土地の使用料…月額200円/㎡を最低額として、応募事業者から提案

(2) これまでの取り組み

事業実施に向けて、平成27年度から、勝山公園内の主要地点での歩行者通行量調査や利用者アンケート等を実施しました。あわせて公共空間を活用したまちの賑わいづくりを検討するため、勝山公園の鵜外橋周辺においてケータリングカー等による軽食等の提供を行う社会実験を実施しています。

この調査結果をもとに事業対象箇所を鵜外橋西側橋詰広場に絞り込み、さらに、具体的な公募要件を検討するため、平成28年度には、マーケットサウンディングを実施し、応募のあった事業者とは個別対話も行い、公募に向けた条件整理等を行いました。

その結果、日常的に人の流れがある鵜外橋西側橋詰広場において、広場内に公園利用者が休憩でき、さらに飲食・物販機能を有する公園施設を導入することとした。

また、施設周辺については、シンボル公園にふさわしいエントランス空間を整備するため、①森鷗外文学碑の移設（北側へ約20m）、②既存売店・便所を撤去、③碑移設、売店等の撤去後に新たな広場を整備するという方針を定めました。

(3) 公募の内容

平成29年度には次の内容で公募を実施しました。

平成29年7月に公募設置等指針、募集要項等を公表し、7月末の現地説明会を経て、10月上旬まで提案募集を行いました。

事業者の選定にあたっては、専門的な視点から審査を行うため、公園緑地計画、建築、デザイン、景観、財務、消費者行動などの専門家により構成された検討会を設置し、11月上旬に事業者から提出のあった提案書の内容について、書類審査、ヒアリング審査を行いました。

検討会では、施設周辺の公園景観との調和や河川景観を楽しめる施設の設計、公園の賑わいづくりに資する施設の運営などが審査され、その結果を踏まえ、事業者を決定しました。

(4) 提案概要

公募により導入する施設は、コメダ珈琲店（フランチイズ契約）で、木造平屋建ての約200㎡の便益施設となります。

施設は川の線形に沿った扇形で、店内には35席・97席を設置し、施設の川側はガラス面を多く使い、店内から河川景観を楽しめるよう工夫されています。

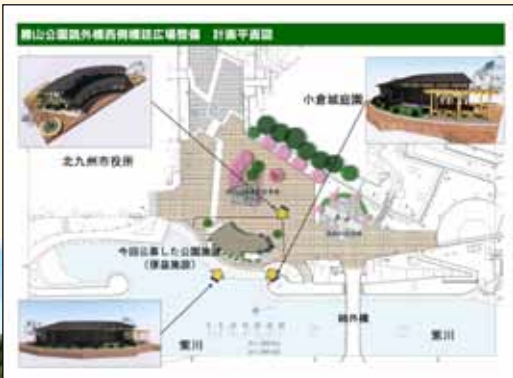
店舗の周辺には、公園利用者誰もが利用できるテーブル・ベンチ等の設置や、店舗外から直接使える多目的トイレを整備する予定です。

設置管理許可の期間は20年間で、それに伴う土地の使用料は、本市が定めた最低額の約5倍となる月額1,000円/㎡を支払う提案となっていました。また、決定事業者は、特定公園施設としてパーゴラやウッドデッキ、園路・広場、植栽等の整備を行い、その整備費に便益施設からの収益の一部を充てることとしています。

(5) 今後の予定

今後は、決定事業者と市で基本協定を締結し、施設の建築や外構の詳細な設計に入り、平成30年4月頃から工事に着手する予定です。同年夏頃からの営業開始を目指したいと考えています。

今回の事業は、新たに創設された公募設置管理制度（P・P・F事業）により、民間活力を導入した結果、公園施設の整備だけでなく、



勝山公園鵜外橋西側橋詰広場整備計画平面図

整備対象箇所の現況



環境と緑 平成29年度公益活動報告（平成29年4月～平成30年3月）



第10回 「都市と自然の共生」 シンポジウム

平成29年11月2日、北九州国際会議場に於いて第10回目となるシンポジウムを開催しました。今回は福岡県立大学学長の進士五十八先生、岡山大学准教授の加藤積久先生をお迎えして、基調講演をいただき、続いて北九州市建築都市局の柴田卓典局長から「現場からの報告」をしていただき、最後に環境局環境学習課の上吹越美香課長をコーディネーターとして意見交換を行いました。

基調講演Ⅰ
進士五十八（じんじ いそや）氏
3つの共生で環境まちづくり
4つの多様性で持続可能な社会

- ① 自然共生 生物的自然との共生
- ② 環境共生 資源・エネルギーなどとの共生
- ③ 地域共生 先進国・発展途上国 都市・農村など地域間の共生
- ④ 景観多様性 地球風景（文化的環境の持続性）



- 4つの多様性
- ① 生物多様性 地球自然（自然的環境の持続性）
 - ② 生活多様性 地球社会（社会的環境の持続性）
 - ③ 経済多様性 グローバル経済（経済的環境の安定と持続性）
 - ④ 景観多様性 地球風景（文化的環境の持続性）

自然共生社会とは

「なぜ自然共生社会が大事か。自然共生社会は、2010年名古屋で開催されたCOP10いわゆる生物多様性条約締約国会議ですが、その時、里山イニシアティブを日本は出した。何でそれをやるのかと言うと日本の社会を自然共生社会にするのだというのを掲げて、自然共生社会の実現のためにとりあえず身近なあるいは日本の伝統の中にある里山、里山での知恵、日本人の里山の付き合い方、つまり日本のオリジナリティーのある自然共生社会を目指すこととした。生物多様性や脱温暖化の問題でもなんでもグローバルに考えようとするが、グローバルは大事だが、足元が見えない。抽象論ばかりやる。そこで里山イニシアティブを日本政府の方針として作った。その中で初めて自然共生社会という言葉

葉を作った。自然と共生するとは、昔から言っていたが、われわれは自然共生社会の根っこを里山に求めた」とわが国における自然共生社会の根本の考え方を説明された。

ランドスケープ・アーキテクチャーと造園の違い

「ランドスケープ・アーキテクチャー（Landscape Architecture）は、現在造園と言っているが、日本では最初、アーキテクチャーを造家学と翻訳された。東京駅を設計した辰野金吾の時代です。「家を造る字」つまり「家」だった外は庭だから、造園となった。その後、建築屋さんたちは、造家学ではみつともないと言って「建築」という新しい言葉を作った。ところが造園界は造園という言葉を生産大事していて「造園命」などと言っている人もいる。

造園という言葉は、大事な言葉であるが文字は中身を表すから限界がある。造園という言葉は「園を造る」と国構えで囲われているから、一般の方やマスコミなど庭園とか公園とか囲まれた空間しか想像してくれない。それは根っこの方では大事だが、拓かれた国土全体、県土全体、都市で言えば都市計画全体が大事と思う。

今一番大事なのは細かく縦割りにするのでなく全体でモノを見ること。ただ造園業界となつて仕事になると仕事のスキルという技術があるから、一番得意なところで勝負すればよい。ただ具体の仕事はそうであっても全体をわかつていることが必要です。コンサルタントはもう少し広く全体を見なければならぬ。行政の人はそれよりもっと広く全体を見なければならぬ。」と造園という言葉の成り立ちから狭い範囲で物事を捉え考えるのではなく、全体を見ることの重要性を強く説かれた。

ランドスケープ・アーキテクチャーの意味するところ

「造園という言葉は、日本で言っているだけで韓国では造景といい、中国では風景



これから都市部でも増える空き地や耕作放棄地は、リーダーの明確なビジョンと強い信念で推進することで、安全・安心なまちづくりへのチャンスになるのではないかと締めくくられました。

〈現地報告〉
柴田卓典（しばた たかのり）氏
「現場からの報告」



北九州市の新環境基本計画（案）
「環境首都グラン・ドデザイン」の行政計画化。
理念・行動原則
具体化のためのプログラム・プロジェクトを重視する。
テーマ・目標設定にSDGsを参照、活用する。

SDGsとは

限りある地球の資源を世界中の人々が公平に利用し、未来の世代に残していくための目標。
2015年、国連の全加盟国が合意。
2030年までに達成する17の目標を掲げる。



がら樹木を植えていった。そんなことでして公園を造った。なぜ公園が必要かと言えば、産業革命以降、都市に工場ができ事業所ができ、地方から人が集まる。環境が悪くなる。つまり都市が産業化すると環境が人工化する。自然がなくなる。だから公園が必要であることを唱えた。一言でいえば、オープンスペースが必要になった。このオープンスペースつまり緑こそ、都市のインフラである。とかねがね私は言っている。

そのオルムステッドは、環境が人工化することからランドスケープ（landscape）・アーキテクト（Architect）という職能がいるのだと言っている。」と造園と訳されているランドスケープ・アーキテクチャーは、都市全体を視野に入れたものであることを説かれた。

これからの都市のあり方
「21世紀は、環境や景観の時代で本当の環境を求める時代と思っている。そろそろそこに脱皮しなければならぬ。だからP・MとかBODだけが環境だと思つのは間違いで、最後は美に至る。そこまでやらなければ駄目だと思ふ。その時、なんて東洋の文化は見事なのか。自然とか、大地とか。そういう土地の特性を活かしている。20世紀はどういう時代であったかと言うと都市問題と環境問題を生んだ。もともとは「田園は神がつくり、都市は人間が造った」とヨーロッパ人は言い、都市こそ人間が居住する環境と思つていた。城壁で都市を巡らした。ハンブルグとかフライブルグという都市名のブルグは城壁のことで、都市を囲った。その中で人々は暮らした。だから近代化するとベストが流行った。高密度に住み工業製品を使い始めるとおかしくなる。

都市を人間が造ったから素晴らしいと思つていたら、都市という囲われた狭いところに人間が大勢暮らしているから病気が起こるようになった。

パストラルⅡ田園こそ人間と自然が共生できる環境が重要である。

世界中の都市計画屋さんには、人間が都市に住むことが最後のゴールだと思つている。

それは間違い。北九州も東京や名古屋になることを理想と思つているのではない。か。それで環境先進都市というのなら、それは違う。北九州市には後ろに山があり、前に海がある。川が流れ、そういうのを活かして、人口が少しずつ減るのであればよい。それら自然を活かして、ひとつの美しい街をつくれればよいではないか。みんな自分でモノを考えない。感じる能力がない。技術屋や役人も。どこかで勉強をしてきたことをやろうとする。

子供たちがこの街いいな。俺のふるさとだ。と自慢できる街をつくるのが大事です。こうでなければならぬということはない。日本は、専門化すぎて、専門のことしかいわない。トータルに話せる人が少ない。」とトータルにモノを見る感性を持って、これからの都市づくりを行うことの重要性を話された。

3つの共生、4つの多様性を基本にこれからの都市づくりのあり方、それへの造園家が果たすべき役割を多くの事例をあげながら、ご講演いただいた。

基調講演Ⅱ
加藤積久（かとう さだひさ）氏
「しなやかな回復力をもったグリーンインフラの創造」

グリーンインフラとは
自然が持つ多様な機能、いわゆる生態系サービスを賢く活用すること。
社会資本整備、土地利用等のハード・ソフト両面に於いて、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、



初めまして「〇〇」です

(市職員の横顔)

建設局公園緑地部
みどり・公園整備課
松本 勝男さん

建設局公園緑地部みどり・公園整備課松本勝男です。出身は地元北九州市で高校卒業後九州大学農学部に入學しました。大学・大学院では杉材の乾燥について研究を行っていました。大学院卒業後、大阪の建材メーカーに就職し、内装・ドアの商品開発に携わりました。

この会社で2年間働いたのち、2012年に北九州市役所へ造園職として入職しました。入職して最初の職場は東部整備事務所という主に工事監督を行う部署でした。当初私が苦労したのは、土木の経験がほとんどなかった点でした。樹木や造園のことは大学で学んでいましたが、土木に関しては「法面」を「ほうめん」と呼ぶほどの素人でした。しかし、職場の先輩や係長に色々教えていただいたり、様々な現場を任せていただいたりしたおかげで徐々に覚えていくことができました。2年目には、小倉コレットの裏にある米町公園の全面再整備工事の監督を経験しました。工期が短くとても大変な現場でしたが、様々な経験を積むことができました。



その後、八幡西区役所で3年間公園の維持管理を経験したのち、現在はみどり・公園整備課で働いています。仕事は今年度発生した豪雨災害の対応や花に関するイベント、課内の庶務作業など今まで経験したことがないものばかりですが、とにかく疑問に思ったときはその時に解決することを意識し、仕事に取り組んでいます。

趣味は野球観戦です。私自身野球経験はないのですがソフトバンクの試合を見るのが好きで、ダイエー時代からほぼ毎日観戦していました。一昨年には子供が生まれてからはゆつくり観戦することが難しくなりましたが、子供がもう少し大きくなったらヤフオクドームと一緒に観戦することを楽しみにしています。

今後は造園職として北九州市を象徴するようなランドスケープに携わることが私の夢です。そのため、まだまだ未熟ですが仕事・勉強ともに頑張っていきたいと思っています。

ランドスケープ交流会 in北九州」の開催

造園業界も高齢化による退職者や若者の建設業離れが進んでいることから、会員企業へのアンケート調査をしたところ、「将来的に中軸となる社員の不足が見込まれる」との回答が最も多かった(18社)ことから、若手社員の人材確保策として「ランドスケープ交流会in北九州」を北九州市中小企業振興課の助成を受けて平成30年1月6日(土)に開催しました。

当日は、行橋高校3名、先生1名、随員、西日本短大3名の参加を得て、北九州市公園緑地部の大畑係長による公園事業の説明を受けた後、勝山公園小倉城内整備の現地を訪れ現場代理人から、仕事のやり甲斐や苦労話を聞きました。

また夜宮公園旧安川邸予備工事の状況について完成予想図を見ながら、営原理事から仕事の進め方や現場調査のやり方など伺いました。

午後は、小松理事から樹木医の仕事、藤田副会長から街路樹剪定士や公園管理運営士などの業務を踏まえ、造園業全般やまちづくりでの役割について、話していただきました。その後、協会会館において学生・生徒と会員との交流を深めるため、お互い率直な情報交換をしました。当日は、天候にも恵まれたことから、予定を全て行うことが出来、随員の先生によると進路先の参考になることから、継続して欲しいとお話をいただきました。



樹木医一言 水野貞明からの



22

・年輪(ねんりん、growth ring)は、通常温帯から寒帯の木の断面に生じる同心円状の模様で、成長輪ともいう。成長輪のうち一年に一つずつ増加するものを年輪という。

・輪状に見えるのは、春期には幹の肥大成長が盛んで、夏期にはゆつくりになるためであり、色の濃い部分は細胞壁が密に、色の薄い部分は細胞壁が疎になっている。

・熱帯の樹木にはないことがあるが、乾季と雨季があれば乾季には成長が休止するために成長輪が形成される。

・年輪を数えることで、その木の樹齢を知ることができる。

また、年輪には大規模な旱魃や山火事、虫害などの痕跡が残されていることがある。この痕跡と様々な記録を比較することにより、その木の過去の生育環境を調査することができる。

・広く知られている俗説に、「北半球では南側から日が当たる為、暖かい南側は発育が盛んで年輪の目が広く、北側は目が詰まっているので、切り株があれば大体の方位がわかる」という説があるが、これは誤りである。

・実際は、たとえば針葉樹が斜面に生えている場合に、木が谷側に傾かないように谷側がより盛んに成長する為、谷側の目が広く山側の目が詰まって育つので方向はあまり関係しない。この時に谷側に形成される材を圧縮あて材と呼ぶ。また、広葉樹では針葉樹とは逆に山側に引つ張りあて材が形成される。

・このように材の成長には様々な要因が関係し、方角だけで決まるものではない。また、年輪を確認するためには切り口が滑らかである必要があるが、自然な原因で木が倒れる場合、根本からひっくり返るか、へし折れるようになる場合が多く、滑らかな面は作られないから、自然の森では年輪の見られる切り株は滅多にない。

・肥大成長量すなわち年輪幅は、葉の枚数などを通じて前年の気象条件にもある程度影響されるが、同時に当年夏の気象条件による光合成量によって大きな影響を受ける。また、極端な気象条件による枝枯れや凍害、台風による枝枯れなどが起こると、翌年の肥大成長は低下する。

環境首都ブランドデザイン 3つの柱

- ①共に生き、共に創る。
一人ひとりが、環境のために行動する権利をもっていることを確認する。
 - ②環境で経済を拓く。
環境と経済の好循環が持続可能な社会を創りだす。
 - ③都市の持続可能性を高める。
環境負荷が小さい都市構造への転換、資源・エネルギー利用の効率化や再利用、施設の長寿命化などを進める。
 - ④環境首都ブランドデザイン 10の行動原則
①市民の力で楽しみながら、まちの環境力を高める。
②優れた環境人財を産み出す。
③顔の見える地域のつながりを大切にする。
④自然と賢くつきあい、守り育む。
⑤都市の資産(たから)を守り、使いこなし、美しさを求める。
⑥都市の環境負荷を減らしていく。
⑦環境技術を創造し、理解し、産業として広める。
⑧社会経済活動における、資源の循環利用に取り組む。
⑨環境情報を共有し、発信し、行動する。
⑩環境都市モデルを発信し、世界に環を拡げる。
- このような目標でSDGsの指標を環境基本計画に積極的に取組んでいくことで、定量的に進捗を図る。

北九州市が目指すべき姿 コンパクトシティ

人口の急激な減少と高齢化を背景とした中、市民の生活を支えるコンパクトなまちづくりを推進するために、北九州市立地適正化計画を進めているが、更に都市計画マスタープランを改定し、「居住誘導区域」居住を誘導し人口密度を維持するエリアの確保。「都市機能誘導区域」医療、商業等の都市機能の立地促進。「公共交通網の維持・充実」交通結節点の強化、幹線バス路線等の高機能化。これらを定め、「まちなか」を重視するとともに、周辺部に於いても、それぞれの地域に相応しい住みよいまちづくりを進める。

また、自然や農業環境を守るために、郊外の大規模な開発の抑制をはかる。

このような取組みの中で、常に国際的ブランドを意識し、環境首都としてのみどりのランドスケープの実現を図りたいと述べられました。

意見交換会

上吹越美香(かみひごし みか)氏
「自然と共生する持続可能な都市のかたちに変えるためには」

みどりの生命を重んじ、生命の多様性を再認識し、グリーンインフラを賢く活用すること、北九州市の掲げる真の豊かさ、真の美しさが形成されるだろう。

また、トータルにものを見る感性を養い、総合的な視点で社会を構築していくことが大切である。

造園業界に於いては、維持管理と共にマネジメント能力も必要となる事を意識して、専門的な知識をもっと活かせる場面を

つくり、事業のプランニングから携わる事を積極的にアピールしてはどうか。そして足元を見た北九州市独自の環境まちづくりをして欲しい。

意見交換会ではこのような課題をいただき、盛会のうちに第10回シンポジウムを終えることができました。

私達は、限られた人口・資源、財政の中で色々な課題に自信を持って立ち向かっていかなければなりません。

「環境を見える化すると風景になる」風景を見える化する

進士先生からのメッセージをイメージして、北九州市におけるグリーンインフラの施策、事業の展開が進められる事を期待します。



「到津の森公園」 環境整備支援活動

今年で10回目となる到津の森公園の環境整備ボランティア活動を平成30年2月20日(火)に会員企業から43名の皆さんが参加し実施しました。

当日は、厳寒の今冬とは思えないほどの快晴の中、テレビ取材を受けながら、枝葉が徒長して園内の見通しを悪くしている中下木の剪定を主に行いましたが、額に汗が滲むほどでした。

春に向けて、ミモザや桜などのお花見に訪れるお客様が多くなることから、来園者にとって快適な空間になったのではないかと思います。



藤田

藤永

藤田

例えば、大里地区は公共施設を集約するとともに公園を整備する計画になっています。また一部は住宅地として民間開発用地となるようですが、人の住む近くに使いやすい公園ができることは、地域にとってはよいのではないでしょうか。

説明会に参加していた30代の子育て中の若い方の中の2名が、公共施設が集まり公園ができるこの計画に期待している、との意見を言われていました。公園は、結構よい場所にありますから、今後まちづくりの核になり得るのかもしれないですね。

ニューヨークのセントラルパークに面したマンションやビルは人気が高



勝山公園

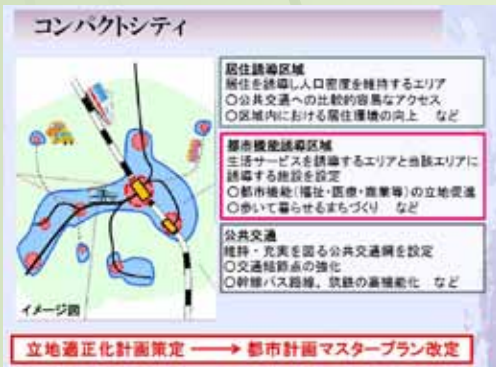
のかもしれないですね。例えば、駐車場があり、広場や遊具があり、水遊びできるような公園とか。

それでは、勝山公園はうまくいったのではないのでしょうか。今、北九州市は施設マネジメントの一環として、例えば廃止された門司競輪場跡地の土地利用に取り組んでいます。これからは人口が減って税収も減って、できることも限られてきます。

北九州市はコンパクトシティ化を図って、市民が生活しやすくすることに取り組んでいます。

菅原

コンパクトシティの概念図



く、かのトランプタワーも面している。福岡市も、住むところとして人気があるのは大濠公園の周りと聞いています。公園とか緑が多いところは、住みやすいし付加価値が高いと思います。

東京でも原宿の表参道は、ケヤキの並木を核として、その周りに商業施設が立地していますが、今のような、若者さらに海外からの旅行者があふれる街にはならなかったのではないかと思います。

戸畑区も夜宮公園周辺にマンションが多く立地するようになりました。戸畑区に限らず、最近のマンションの広告では、「〇〇公園まで歩いて何分」というようなキャッチフレーズもよく見かけます。また戸畑区は施設マネジメントとして、D街区に公共施設を集め、利便性を高めて人気を集めています。交通や買い物で不便を感じる地域の人たちが集まるようになれば、これからコンパクトシティ化がさらに進むでしょうね。

藤田

菅原

藤永

藤田

高齡化すると便利で生活しやすいところに住んでもらう方がよいです。

財政状況が厳しく人口減少が進む中で、例えば山の上の不便な場所に20人しか住んでいないところがあつて、そこへの上下水道や道路が老朽化した時に、それをやり替えるには十億単位のお金が必要とします。さあ、市民の皆さんが賛同されるでしょうか？行政からは、言い出しにくいけれど、そのような現実が間近に迫っています。

ヨーロッパでは、例えば、鉄道線路の存続について先々の維持管理費などの負担など示し住民に諮って決めているところがあります。行政が何もしないのではなく代替案を提案しながら、最良策を見つける取り組みをしています。

北九州市は、日本では一番高齡化が進んでいる政令指定都市であり、その意味で最先端都市です。その政策の結果のひとつとして、これから高齡化が進む中国や韓国を含め、他の都市の参考になる「世界の最先進都市」とも言えます。

人口が減るのは避けられないかもしれませんが、まちづくりでは人口を減らさないということを考えていかなければならないと思います。

門司区もそうですが、八幡東区も山沿いでは住む人が減って空き地が増えている現状があり、これから先に活用方法を考える際には、造園業界でも何かできることがあると思います。

森林のあり方が、災害時など近年問題になっていて、スギなどの単相林は災害に弱いことから、国が森林を守る方向に動いています。

島根県では、林業の後継者不足があつて、森林の保護や間伐などの管理に造園業が携わるようになっていきます。これもグリーンインフラの役割の

藤田

藤永

菅原

一つである減災につながるかもしれない。

今後の造園業界には、グリーンインフラのような都市・地域を守り築く役割と、まちづくりでの公園や緑の扱いなど、二つの役割があるかもしれないね。

そういった点ではグリーンインフラもコンパクトシティと同じで、施設マネジメントにお金をかけることで、結果として斜面地などでの自然災害による被害が少なくなるなら、その方が防災面でも経済面でもメリットが大きいと思います。またコンパクトシティ化によって人が集まってくれば、街にも賑わいが出てくるようになると思います。

賑わいと言えば、市場や商店街などそれに関わる人達のやる気と変える努力も必要だね。オシャレなところと認められることが大事で熊本市など頑張っているところもあると聞いています。

お金がないから何もできない、というのではないと思います。

お金がないと知恵が出ます。国も自

山の上にある住宅地



藤田

菅原

藤田

菅原

本日は、協会広報誌「みどり北九州」を発刊して今回で50号になるのを記念してお集まりいただきました。座長を藤田副会長にお願いし、座談会という形式で、造園業界のこれからの展望について意見を交わしていただきたいと思っています。

われわれ造園業界を取り巻く環境としては、全国的に公共事業費が少なくなつてきており、本市も15年前の半分以上という厳しい状況ですが、北九州市や福岡市の大都市はこれまでに整備された公園や街路樹等があり、更新整備や維持管理の業務があるので、全国的に見ると恵まれています。かといつてこのままではいけないと思つており、「天は自ら助くる者を助く」ではないが、行政からだけでなく民間の仕事もできるような自助努力も必要だと思います。

われわれ造園業界の立ち位置として、社会から必要とされる業界や会社でなければなりません。近年、協会シンポジウムのテーマとしている「グリーンインフラ」は、日本造園建設業協会や日本造園修景協会でも取り組み始めましたが、これは造園業界もその役割の一翼を担えないかと考えたからです。

そこで今後、造園業界がどう動いていくべきかを話しましょう。

造園業は都市部で樹木を扱う唯一の職業で、都市の美観にとつてなくてはならないものです。みんな美しい街に住みたいという基本的な欲求があります。一方でそれは衣食住が満たされた上でのみ成り立つ、いわば贅沢産業の一つであるとも言えます。ただ美しさを維持するだけで業(なりわい)が成り立っており、美観に対する欲求が大きい都市部ならではの職業だと思つています。

発展途上国には、造園業は存在しま

藤永

菅原

三宮

藤田

菅原

せん。飛行場の回りや大統領官邸周辺などは緑化しているが他のところは少ない、というのが実情です。かつての宗主国がやったところが残っているくらい。

国・自治体も、民間も、経済力がないと緑化は後回しになっています。

菅原さんの言うメンタルな面への貢献と「世のため人のため」になる産業であることが必要ではないでしょうか。公共事業においては、税金を使う訳ですから、市民が困っていることを解決する、もしくは緩和することもわれわれの大切な使命だと思います。

「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の考えでは、社会に役立つことも重要です。今後、グリーンインフラにおいて造園業の分野でできることがあれば、社会的責任も果たしていけるかなと思います。

現実には、すでに土木や建築の業界はグリーンインフラに取り組み始めています。本来われわれの範疇と思うところまで進出しようとしており、造園業界としても担える努力が必要だと思います。

かつてビオトープが流行りました。建設業法の上では、生態系保全というのは造園に分類されているのですが、ゼネコンなどは付加価値として、ビルの屋上などにビオトープを造つて自らの「事業」に活かしています。

グリーンインフラでいうと、東京駅周辺はすごいですね。都心での緑化により素晴らしい街が出現していますね。たまに東京に行くとき緑化の質が高いと感じます。

北九州市も緑は多いです。「隣の芝生は青く見える」で、他から来た人の印象では、北九州市は緑が多くて公園が多い。自分たちが気付かないだけでいいところがいっぱいあると思います。ただ目を見張る公園は、やや少ない

平成29年度 協会活動報告

平成29年

5月31日

協会の遊休中古備品（会員希望者なしの長机、パイプ椅子、固定椅子など）について、北九州市民スポーツ局地域振興課を通じて市民センター（竹末、黒崎、陣山、槻田、高須、守恒、大里等）に寄贈した。

6月14日

定時総会を響灘緑地研修館で開催した。平成28年度決算及び平成29年度予算が承認された。また平成29年度・30年度（平成31年定時総会まで）の役員が承認された。

11月2日

第10回「都市と自然の共生シンポジウム」を北九州国際会議場で進士五十八福井県立大学学長、加藤禎久岡山大学准教授ほかを講師に迎え開催した。一般33名、行政15名、会員29名の計77名が参加した。

11月19日

親睦グラウンドゴルフ大会を合馬竹林公園で会員企業から参加者48名で開催した。

平成30年

1月6日

「ランドスケープ交流会in北九州」を行橋高校生3名（先生1名、西日本短大生3名、会員7名の参加を得て行った。

1月19日

「新春みどりの集い」をステーションホテル小倉で今永博副市長、横矢順二建設局長、山本幸三衆議院議員ほかのご来賓を迎え参加者96名で開催した。

1月28日

2月4日 北九州市産業経済局国際ビジネス政策課が主催するベトナムビジネスツアーに会員企業4社が参加した。

2月20日

「到津の森公園」環境整備支援活動（低木剪定、除草）を会員企業から43名が参加して行った。

年間

青年部は今年度より、月1回程度のペースで「勉強会」を開催しています。その時々の内容を話題にしながら、実務担当者同士で情報交換ができれば、と思っております。雑談を交えながら気楽に進めていくので、興味のある方はぜひご参加ください。

継続して行っている目串づくりも順調に進んでいます。青年部で行う切り出し・加工の作業が、造園資材になり障害者福祉にも役立てられています。

広報紙「みどり北九州50号」を記念号とし編集作業及び協会ホームページの更新作業を行った。

そのほか北九州市が主催する「第22回花と緑のまちづくりコンクール事業」（建設局）、「エコライフステージ2017事業」（環境局）へ協賛した。



青年部勉強会



新春みどりの集い



親睦グラウンドゴルフ大会



定時総会

緑のネットワーク

都島展望公園

山の上のグラウンドがリニューアルされました。



勝山公園

小倉城周辺の中核である天守閣広場の再整備を行いました。



金剛中央公園

様々なスポーツやイベントを行う多目的グラウンドを備えた公園に生まれ変わりました。



三宮

藤田

治体も税収が減ってきて、福祉への負担が増えた結果、指定管理者制度とかPFIとかの政策が出てきたと思います。これからも減るであろう財源の中でも、安全で住みやすい都市を持続させなければなりません。造園力でもって社会に貢献することを考えていかなければならないのではないのでしょうか。グリーンインフラで言えば、造園業界だけでは力不足のところがあるので設計コンサルタントの存在が重要なのではないのでしょうか。コンサルタント業界は、構想から設計までの様々な局面で行政と関わることも多いのです。勉強している方も多く、まちづくりへの提言を行う機会も多くあると思います。

実際に九州では、日本造園建設業協会、ランドスケープ・コンサルタント協会、日本植木協会、公園施設業協会からなる九州緑化協議会があり、関係機関が協力しながら調査・研究・提案をし、国土交通省九州地方整備局との意見交換会の場があつて、提言する機会があります。実際の施工に至った例も、いくつかあります。日本造園建設業協会福岡県支部では今年の活動として、コンサルタント協会の協力を得て、「造園にできるグリーンインフラ」をテーマとした調査研究を提案していきます。

菅原

こう見てくると、われわれ造園分野は、都市の緑化や公園・庭園の管理などの都市景観への関わりから、グリーンインフラによる防災・減災、快適な居住環境の形成まで、様々な役割を担えるようになれば、守備範囲の広い業界だと市民に思われるでしょうね。昔は緑に関することはなんでも造園

藤田

三宮

藤田

野上

藤田

野上

藤田

野上

の範疇だと思っていました。最近、緑を扱わない仕事も増えました。造園の目線で形の納まりを考えたり、人の美観に即して舗装や緑石を整備したりと、造園の技術的な範囲は広い、と感じます。

最近、市の発注工事の竣工検査でも数量の確認だけでなく出来栄を検査官が評価してくれるようになったと思います。そういうような形が変わってきました。担当の方が抜き打ち的に何ヶ所かの数値を確認して、検査官は出来栄を見るような検査が多くなりました。

検査が終わってバリケードを外すと子供達が一斉に公園で遊び始める姿に出会うと嬉しですね。最後に公園の整備や維持管理に関わる民間事業者として、気付くことなど話しましょう。

人口が減り少子高齢化で公園利用者が少なくなる中で、公園の使われ方も変わってくるのではないのでしょうか。例えば、ドッグランがあればいいなどという話を聞きますが、北九州市にはあります。また子供達はボール遊びができる公園を求めて、親に連れられて少し遠くから遊びに来ています。

市内では、民間も含め本格的なものはないと思います。公園で言えば、八幡西区の本城緑地の中にドッグランがありますが、広場が芝生の本格的なものではなく、個人的には市外にある民間ドッグランに行っています。そこでは全面芝生で、遊ばせる道具があるなど様々な仕掛けがなされており、また犬の手入れやしつけ教室などがあります。北九州市からの利用者も多くいます。犬を安心して遊ばせる場所であれば、利用したい方はかなりいるのでは

藤永

藤田

三宮

菅原

藤田

野上

菅原

ないでしょうか。確かに一部のルールを守らない人がいることで前に進めないのかもしれない。

試しに作ってみることも考えられます。公園は、使われることでその価値が上がると思います。

ドッグランで言えば、ただ走りましようではなく、「保護犬を減らす」活動とリンクさせるとか西港にある動物愛護センターとの連携も考えられるのではないのでしょうか。

われわれは仕事柄、区ごとに限られるかもしれませんが、普段の公園の使われ方を見る機会が多いですね。このころは、公園の使われ方も随分変わりましたね。

身近な公園では、再整備の際に地域でワークショップを行って、地元の方自身が使い方を決めています。ただ少子高齢化や人口減少で、あまり活用されていない公園も確かに見受けられます。

人口減少や財源難から、公共でできることは限られてきたため、指定管理制度ができ、最近ではパークPFIが始まっています。札幌市では、パークゴルフ場をPFIで造園業の仲間が他の業種と連帯・整備して運営している事例もあるようです。

国では、これまで造ってきた公園のストックを活用し、民間のお金と知恵で地域に活かすためパークPFIを創設したと聞いています。

自分には、そのような力はないのですが、公園のことを一般の人よりはよく知っている訳ですから、事業ができそうの方にお話するくらいはできそうです。

ドッグランやパークゴルフ場も市民のニーズがあるなら、郊外の公園などでパークPFI制度をうまく活用でき

藤田

るかもしれませんね。ただ、指定管理者やPFIなど近年採り入れられる制度が、全ての公園管理に対して適用拡大されていくのでは、と不安視する声もあります。制度の問題点や、対象とすべき公園の規模など、民間事業者の視点から物が言えるように業界も勉強しなければなりません。市民サービスを向上させる、という視点も重要になると思います。

われわれ造園業界にとつて大変厳しい時代になったことは、間違いないと思います。この変化の激しい中で、業界として存続するためには、社会に認められる役割を果せるような発想力や技術力、一言で言えば造園力を高めることが重要だと思います。（一）

*「グリーンインフラ」とは、自然の持つ多様な機能（遊水、大気や水質浄化、レクリエーション、良好な景観形成など）を活用し、防災・減災、快適な居住環境の向上など、安全で住みやすい持続可能な都市づくりのためのインフラや土地利用計画。

*「指定管理者制度」とは、自治体が住民福祉増進のため公共施設を公募で選ばれた民間事業者やNPO等の知恵や工夫より運営・管理させる制度。

*「コンパクトシティ」とは、人口減少など縮退する都市において、地域の拠点となるところに都市機能（行政、交通、商業など）を集約し、生活の利便性を高めるとともに都市インフラ管理などの効率化を図る土地利用計画のあり方。

*「パークPFI」とは、公園利用者が便利になるよう公募で選ばれた民間事業者が収益施設（カフェや売店など）とそれからの収益を活用し公共部分（園路や広場など）を一体で整備する制度。

一般社団法人 北九州緑化協会 会員名簿

(平成30年3月9日現在)

支部	商号	所在地	TEL・FAX	支部	商号	所在地	TEL・FAX
門司	九州環境土木(株)	800-0112 門司区大字畑 46	481-3484 481-3483	八幡南	(有)岡野造園土木	807-0845 八幡西区永大丸南町 2-13-38	613-3804 611-2952
	(有)西新緑地建設	800-0114 " 吉志 5-12-10	481-5467 481-5476		(有)河村造園	807-1153 " 岩崎 4-1-34	618-7170 618-7515
	(有)豊西緑地開発	801-0823 " 春日町 25-24	341-3456 342-1111		(株)後藤緑化建設	807-1143 " 楠橋南 2-11-19	618-5384 618-6707
	(有)松本造園建設	801-0811 " 大字大積 666-8	341-1501 341-1502		(有)サン緑化	807-1114 " 吉祥寺町 7-40	618-1567 618-4684
	(株)水野文化園	800-0112 " 大字畑 46	481-4600 481-4680		(有)田代造園	807-1262 " 野面 740-1	617-1792 617-4518
	(株)門司造園	800-0101 " 大字伊川 504-9	481-2918 481-2630		東洋緑地(株)	807-0854 " 泉ヶ浦 2-22-41	883-8972 883-8855
	(有)門司緑地土木	800-0101 " 大字伊川 504-1	481-1897 481-1993		(株)中川碧水造園	807-1125 " 池田 2-1-3	618-0822 618-6101
小倉北	(株)青葉造園	802-0023 小倉北区下富野 5-1-3	522-0234 533-7922	八幡北	平方晴宏園	807-0075 " 上下津役 3-20-24	612-5677 612-5701
	(有)アートグリーン	802-0033 " 富野台 11-8	533-3735 452-1340		(有)医生ヶ丘産業	807-0803 " 千代ヶ崎 3-1-6	601-8688 601-5338
	朝日工産(株)	803-0853 " 高尾 1-38-5	592-4910 592-4261		(株)折園	807-0863 " 大膳 1-14-22	601-1528 691-3063
	内山緑地建設(株)北九州支店	803-0841 " 清水 1-12-15	581-2741 571-5392		(株)九州緑化建設	806-0055 " 幸神 4-4-3	642-1267 641-0859
	(株)梅田造園土木	803-0861 " 篠崎 3-22-5	592-0516 592-0520		古賀造園	807-0806 " 御開 3-1-5	601-0495 601-9574
	岡崎建工(株)	803-0846 " 下津 5-9-22	581-4327 581-4632		(有)清水造園	806-0047 " 鷹の巣 2-6-30	631-0694 631-0703
	北九州東部緑地管理(株)	803-0814 " 大手町 5-23	591-1487 591-1489		(有)千成造園土木	807-0875 " 浅川台 1-8-1	603-8050 603-8071
	(株)九州造園	802-0026 " 大島 2-10-1	531-6121 531-6123		(有)寺門六香園	806-0046 " 森下町 17-1	641-2094 641-2097
	(株)九州緑化産業北九州支店	803-0856 " 井天町 5-8	561-9027 561-9208		(有)古門造園	806-0011 " 紅梅 4-6-5	622-4087 622-4088
	(株)西日本緑化	803-0836 " 中井 3-3-15-107	581-4128 561-5476		(有)山代造園土木	807-0852 " 永大丸西町 2-1-10	693-9718 693-9706
	(有)緑地管理中山工房	803-0835 " 井堀 5-3-3-202	653-4152 613-0447		(有)渡辺造園	807-0826 " 丸尾町 11-3	602-8336 602-8362
小倉南	青葉緑地建設(株)	802-0826 小倉南区横代南町 3-12-15	962-6175 962-6904	若松	遠藤土木(株)	808-0142 若松区青葉台南 2-4-14	742-0331 742-0332
	(株)環境造園	800-0207 " 沼緑町 1-19-15	471-6390 472-4070		(株)オーエヌグループ	808-0121 " 大字竹並 3037	741-0648 742-0370
	(有)協同造園土木	800-0207 " 沼緑町 1-8-75	473-1509 473-3911		岡崎造園(有)	808-0001 " 小石本村町 2-1	771-9255 771-8580
	(有)グリーンカンパニー	800-0228 " 長野 1-8-22	474-5677 474-5733		荻迫緑化	808-0146 " 高須西 2-6-17	741-6816 741-6819
	小倉造園(株)	802-0821 " 横代北町 5-22-36	962-1136 962-1046		(有)三司緑化建設	808-0106 " 片山 1-2-33	701-1565 791-7955
	(有)小倉南緑地	802-0979 " 徳力新町 1-15-23	963-0769 961-5649		(株)三宮造園土木	808-0104 " 畠田 3-4-12	701-0422 791-9223
	総合緑地建設(株)	803-0261 " 大字合馬 301	453-1678 453-1677		(有)洞北緑地建設	808-0133 " 大鳥居 14-2	741-1820 741-1848
	(有)千代丸造園	800-0208 " 沼本町 2-9-22	474-5400 474-5401		日本緑営(株)	808-0104 " 大字畠田 943-1	791-0440 791-0441
	(有)林造園	803-0261 " 大字合馬 981	451-1876 451-1819		(有)平和造園	808-0001 " 小石本村町 1405-2	761-2298 330-4085
	(有)日浦緑地建設	800-0201 " 上吉田 5-18-14	473-5296 473-5256	賛助会員			
	豊州造園建設(株)	800-0242 " 津田 5-9-24	473-6967 473-8084	賛助会員	商号	所在地	TEL・FAX
	(株)みらい	800-0222 " 中曽根 3-7-32	472-5999 472-4999		(株)成光社	803-0853 小倉北区高尾 2-5-33	561-1821 561-1820
	(株)守恒造園建設	802-0986 " 志井鷹羽台 4-3	962-4211 962-4272		総合園材(株)	812-0882 福岡市博多区麦野 3-18-20	092-588-9088 092-588-9220
	山本興業(有)	803-0261 " 大字合馬 234-1	451-2312 451-2312		日本乾溜工業(株)	806-0046 八幡西区森下町 27-36	631-0237 622-2357
東戸	(株)グリーンニッポ	805-0017 八幡東区山王 3-14-28	662-3201 671-1423				
	菅原造園建設(株)	804-0094 戸畑区天神 2-2-21	883-1120 883-1121				
	眞矢造園	804-0032 " 西大谷 1-5-7	881-0711 881-0770				



緑について気軽にご相談ください。一般社団法人北九州緑化協会 TEL:093-654-1233

掲示板

本誌「みどり北九州」第50号を作成しました。
本誌は当協会活動や北九州市の緑化事業に関する情報発信を目的としています。また当協会ホームページでも活動内容や「みどり北九州」のバックナンバーなどもご覧になれますので是非、お気に入りのに加えてください。(広報委員会)
○青年部では各社の代表になられる若手の方、もしくは主力となる若手社員を主な対象として活動しています。自薦・他薦を問わず、新しい方のご参加をいつでもお待ちしております。(青年部)

編集後記

『みどり北九州』は、第50号を迎えることとなりました。平成28年より年1回の発行に移行しましたが、それ以前は年2回の発行でした。それゆえに、50という数字に到達したことに様々な意味合いを感じずにはいられません。年月という重み、その中で取り組んできた事、またそれが導きだされた結果…。
止まることのない時間のなかで、私たちは何を成せて、何を成せてないのか…。
広報誌を通して、そのようなことも感じられるといいのではと個人的には思っています。
この度も多くの方のご協力のおかげで50号を送り出すことができました。50号の発行にご協力を頂きました皆様へ心よりお礼申し上げます。(H.H)

